

## 安心して移動できる社会の実現に向けた

### 「モバイル空間統計®人口マップ」の活用による新しい取組みについて

○東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤祐二、以下「JR 東日本」）と株式会社ドコモ・インサイトマーケティング（本社：東京都港区、代表取締役社長：三毛孝彦、以下「DIM」）は、このたび「スムーズに移動したい」「安心して移動したい」というお客さまのニーズに応じていくことを目指し、JR 東日本の MaaS プラットフォーム「モビリティ・リンケージ・プラットフォーム（以下「MLP」）」の地図情報と、DIM が提供する「モバイル空間統計®人口マップ」を連携することに合意しました。

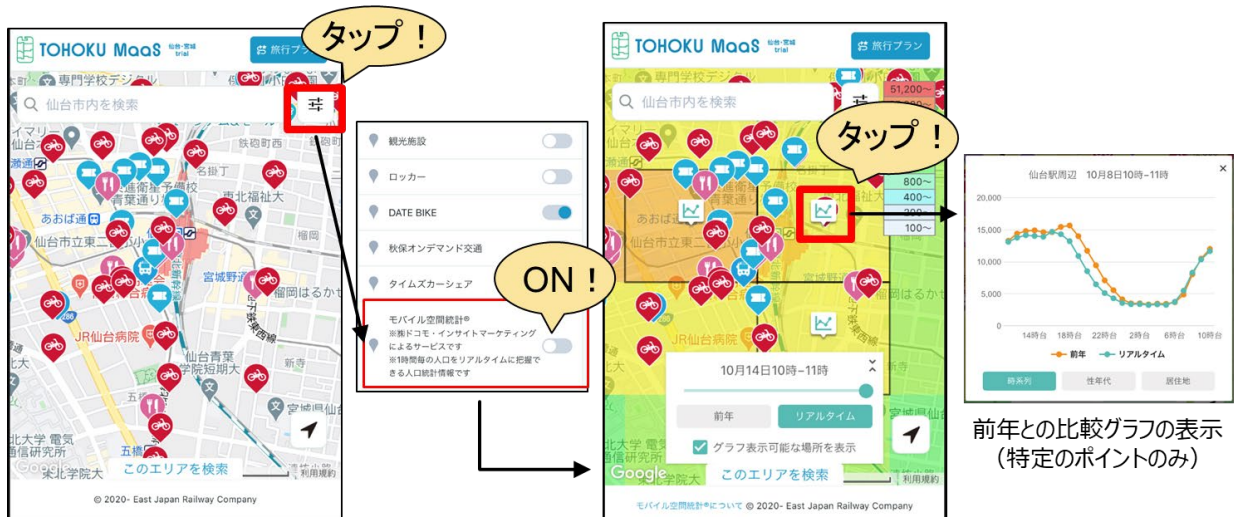
○JR 東日本の MLP の地図情報と DIM の「モバイル空間統計®人口マップ」が連携することにより、お客さまは容易に目的地付近の混雑状況に関する情報を得ることができるようになります。

○なお、これまで DIM は、自社サービスとして一般のお客さま向けにモバイル空間統計®人口マップを提供してきましたが、企業連携は今回が初となります。

#### 1. サービスイメージ

JR 東日本の MLP で使用している地図に、DIM の「モバイル空間統計®人口マップ」を重ね合わせて表示できるようになります。これにより、例えば JR 東日本の MLP を活用した観光型 MaaS において、お客さまは観光地の情報が掲載されている地図上で、おおよその混雑状況も確認することが可能になります。

#### <画面イメージ>



※開発中のため、デザインは変更となる可能性があります。

## 2. サービス提供開始日（予定）

2020年10月20日

まず、2020年11月30日までJR東日本が実施中の観光型MaaS実証実験「TOHOKU MaaS 仙台・宮城 trial」で本サービスを提供いたします。

### 【参考】

#### <MaaSに関するJR東日本の取組み>

会社発足以来取り組んでいる地域創生、課題解決、流動活性化の施策の一つとして、2018年7月に発表した「変革2027」において、検索・手配・決済の3つの機能をオールインワンで提供する「モビリティ・リンクージ・プラットフォーム（MLP）」の構築を掲げております。

これに基づき、当社ではMLP構築やさまざまな実証実験に取り組んでいます。列車の運行情報や混雑情報等も提供するJR東日本アプリ、タクシーやシェアサイクルのシームレスなご利用を目指すRingo Passアプリの他、観光型MaaSでは伊豆エリア（2019年4月～、12月～、2020年11月～（予定））を皮切りに、新潟エリア（2019年10月～）、仙台エリア（2020年2月）、群馬エリア（2020年4月～）、そして現在は仙台・宮城エリア（2020年9月～）と、機能の充実を図りながら断続的に実証実験を展開しています。



#### <モバイル空間統計®人口マップについて>

「モバイル空間統計®」※1※2※3は、NTTドコモの携帯電話ネットワークの仕組みをもとに作成される統計情報を提供するサービスです。そのサービスラインアップの一つとして、最短一時間前の人口分布が把握できる「国内人口分布統計（リアルタイム版）」を提供しています。

「モバイル空間統計®人口マップ」※4はこの機能を活用し、日本全国の1辺500mメッシュ毎の人口分布を最短1時間前から過去24時間分、前年同月の人口分布、前年と比較した人口の時系列グラフ、性年代別、居住地別の構成をホームページ上で簡単にご確認いただくことができるサービスです。

※1 「モバイル空間統計®」は、NTTドコモの携帯電話サービス（2020年3月末時点で約8000万台）をお客さまに提供する過程で、必要となる位置データや属性データなどの運用データを統計処理することによって作成された人口の推計値であり、お客さま個人を特定できない統計情報です。なお、法人名義の運用データなどは除去して推計しています。

※2 本サービスは既存のモバイル空間統計ガイドラインに沿って作成された集団の人数のみを表す人口統計情報であるため、本サービスからお客さま個人を特定することはできません。

※3 「モバイル空間統計®」は、NTTドコモの登録商標です。

※4 「モバイル空間統計®人口マップ」ホームページ <https://mobakumap.jp>